

## 『第 68 回 福山暁の星女子高等学校卒業式 理事長告辞』

「燦華の会」の皆さん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ大人への入り口に立つことになりました。これから楽しいこと、苦しいこと、多くの経験が皆さんを待っています。

皆さんは暁の星で聖書について学んでこられました。聖書には多くの事が語られています。私が一番大切にしている個所を、少し長いですが以下に紹介します。

『すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」 しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。 イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』 さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」 律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。』（ルカによる福音 10 章 25 節～37 節）

これは有名な「善いサマリア人のたとえ」の個所です。このたとえ話が意味しているところは皆さんには改めて説明の必要もないでしょう。「他者のために生きる」という暁の星のミッションそのものです。このたとえ話は忘れないで、これから皆さんが向かう社会で生活する際に、思い起こしていただきたいと思えます。

ではこれから皆さんが出ていく日本の社会はどのような社会でしょうか。2015 年にアメリカの調査会社が世界 140 か国で実施した調査で「過去 1 か月の間に助けを必要としている見知らぬ人を助けたか？」という質問に、「はい」と答えた日本人は 25%で、調査対象国 140 か国中 139 位でした（たとえばアメリカ 73%、ケニヤ 70%）。2018 年にもイギリスの慈善団体が同様の調査をしていますが、この時は 125 か国中最下位でした。日本で頻発している自然災害の時に多くのボランティアが集まるのになぜ？という印象ですが、国

際比較をすると日本は「隣人に冷たい国」と言われても仕方がない国と言えそうです。一昨年我が国のリーダーが、「自助」「共助」「公助」が国づくりの基本と言い、まず「自助」、それが出来なければ最後は「公助」、そのような信頼ある国づくりを行なっていきたいと述べました。まずは自己責任を果たすことを求められ、「共助」「公助」が後回しにされる社会を本当に私たちは信頼ある国として求めていくのか、皆さんにも考えていただきたいと思いません。

人であれ国であれ、価値観を持ちます。一般的に言うと、経済的価値、政治的価値、文化的価値に分類されます。経済的価値とは物質的な価値を大切にする観点、政治的価値とは社会的な価値を大切にする観点、文化的価値とは、生命や思想、環境など人間らしく生きる価値を大切にする観点を重視する価値観です。問題はこれらの価値観の優先順です。今の日本はあまりにも経済的価値観を重視し、他の価値観を後回しにしている気がします。自分ほどの価値観を最も大切にすっていくのか、皆さんもこれから考えていただきたいと思いません。

皆さんは高校を卒業して、もう「大人」として人生の次の段階に進みます。2019年に日本財団が9か国の18歳の若者に対して「自分は大人だと思うか」という質問をしたところ、日本人は29%が「はい」と答えましたが残念ながらこれは断トツの最下位です（例えばアメリカは78%、中国は90%）。皆さんは「大人」としてもっと自信を持っていいと思いません。

コロナウイルスにより皆さんの生活は大きく変わりました。オンラインやリモートを使ってソーシャルディスタンスを保ち、人と人が出来るだけ近寄らないようにする「ニューノーマル」が普通に受け入れられる時代になってきました。感染症の観点からはこれが正しい方法なのでしょうが、一方、人と人との関わりという観点からは「アブノーマル」な状態と言えるでしょう。人は、人との関わりにおいて人生の喜びを感じるものです。距離を取り、一人でいることが正しいと勘違いしないように、人の温もりを直接肌で感じることを大切にすしていきたいと思いません。

最後になりますが、今年7月に行なわれる参議院議員選挙には必ず投票に行ってください。皆さんにとって、果たすべき重要な大人の務めとなることでしょう。

以上で福山暁の星女子高等学校を卒業される「燦華の会」の皆さんへのお祝いの言葉と致します。

2022年（令和4年）3月1日

学校法人 福山暁の星学院 理事長 田中 靖